

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

- 「探究的な学習の過程」をより一層重視し、質的に高めていくこと
- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実生活・実社会において活用できるものにする
- 各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成すること

今回の学習指導要領改訂で重視される「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、子供の学びとしては一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものである。それぞれのバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。

ア 「主体的な学び」の視点

学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び。課題設定と振り返りが重要

イ 「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び
異なる多様な他者と力を合わせて課題解決に向かうことが欠かせない

ウ 「深い学び」の視点

探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すこと

2 「探究的な見方・考え方(総合的な学習の時間における見方・考え方)」について

「探究的な見方・考え方」

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方

(1) 探究的な見方・考え方に含まれる二つの要素

各教科等における見方・考え方を総合的に働かせる

各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。

→ 扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、生徒が意識的に活用できるようになることが大事。

総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせる

- ・ 特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えること
- ・ 課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方

生徒が探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習に取り組む。



よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながる。

総合的な学習の時間における学習評価のポイント

1 総合的な学習の時間における評価の観点について

- 他教科と同様に、三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応する3観点に整理

【旧】(例)

評価の観点
よりよく問題を解決する資質や能力
学び方やものの考え方
主体的、創造的、協同的に取り組む態度
自己の生き方

【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度



※総合的な学習の時間の目標(第1の目標)を踏まえた評価の観点の例

2 「内容のまとめりとごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

総合的な学習の時間における「内容のまとめり」

一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力

- ① 各学校において定めた目標(第2の1)と「評価の観点の及びその趣旨」の確認
- ② 各学校において定めた内容の記述が、観点ごとにどのように整理されているかの確認
- ③ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりとごとの評価規準」を作成

内容のまとめりとごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の記載事項の文末を、下記のように記載することにより、「内容のまとめりとごとの評価規準」を作成することが可能。

- 「知識・技能」 学校において定めた目標のうち、文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。
- 「思考・判断・表現」 学校において定めた目標のうち、文末を「～している」として設定することが考えられる。
- 「主体的に学習に取り組む態度」 学校において定めた目標のうち、文末を「～しようとしている」として設定することが考えられる。

<単元の目標及び単元の評価規準を作成する手順>

- ① 「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成
- ② 「内容のまとめりとごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成

【育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」作成のポイント】

- 「知識・技能」

「i 概念的な知識の獲得」、「ii いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得」、「iii 探究的な学習のよさの理解」の3つに関する評価規準を作成することが考えられる。

- 「思考・判断・表現」

「i 課題の設定」、「ii 情報の収集」、「iii 整理・分析」、「iv まとめ・表現」の課程で育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

- 「主体的に学習に取り組む態度」

今回の改訂において「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、自他を尊重する「i 自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「ii 主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「iii 将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

※ 単元の評価規準を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する生徒の姿を想定することが大切。